

## 平成 30 年度事業報告

政府が働き方改革を進める中、平成 30 年度版高齢社会白書では、シルバー人材センター事業について、高齢者が人手不足の悩みを抱える企業を一層強力に支えるため、「高齢者現役世代・雇用サポート事業」を根本的に見直し、会員拡大等による企業とのマッチング機能等を強化するなど高齢者の就業機会の促進を図るとされております。

また、雇用政策研究会の報告では、人口が減少する中、経済社会の活力を維持するため、全ての年代の人々がその特性・強みを活かし、経済社会の担い手として活躍できるよう環境整備を進めることが極めて重要であり、今後高齢者の活躍を促進していく観点からも、柔軟で多様な働き方をより一層推進する必要があると報告され、シルバー人材センターにおいては、各地域や会員のニーズを踏まえた取組の推進が求められ、労働に加えて福祉的視点も併せて持つことを踏まえた、シルバー人材センターの在り方について、引き続き議論していくことが望まれています。

このように、高齢者の就業の促進を進めるための施策が議論される中、当センターでも、高齢者の就業に対する環境の変化を受けながら、行政の各協議会への参加や各種団体の理解・協力を得ながら、シルバー事業の躍進に努力してまいりました。

事業実績においては、前年対比 請負委任事業 98.9% 契約金額 149,290,254 円 派遣事業 112% 契約金額 29,552,036 円 事業全体では 100.8% 契約金額 178,842,290 円 総会員数は 461 名（新入会員 95 名・退会会員 64 名）となりました。

こうした中、地域のニーズにこたえるため、高齢者にとっての後半生を再構築する拠点となるように新年度からの事務所の移転計画を実施しました。

### 事業計画の実施

#### 1 基本的な考え方

公益法人としての運営基準と関係法令を順守し、地域ニーズの就業を通じた生涯現役のためのセカンドライフの窓口となるべく各種団体等と連携を図りながら事業を実施しました。

## 2 基盤拡大

「全国会員100万人達成計画」に基づき、随時入会や協議会やハローワークの面接会等に参加し会員拡大や業務拡大ができるようにシルバー人材センターの周知を積極的に図りました。

### (1) 会員の拡大

- ・ 余暇利用としての働き方の提案、ボランティアなど地域貢献活動に興味のある方・活動されている方にローカルテレビや市広報誌によりシルバー人材センターの周知・募集を行いました。
- ・ 「楽しい就業・仲間づくり」を会員口コミにより入会促進活動を積極的に推進し随時入会を実施しました。
- ・ 公共施設やイベント会場での会員募集パンフレットの設置・配布を実施しました。
- ・ 会員の定着と早期退会防止のため、新規入会者へ、優先的に就業先を紹介・個人相談を行いました。
- ・ センターのイメージアップを図るよう接遇研修等を通じて会員マナーの向上を図りました。  
(会員マナーについての問題が発注者より報告された。)
- ・ 特化した経験者・資格保持者の獲得のため声掛け活動を行いました。
- ・ 会員確保のため、3月新入会希望者の会費負担の軽減について検討し、会員確保を行いました。
- ・ 優秀な会員確保のため、必要に応じ随時入会を実施しました。

### (2) 就業開拓

会員への生きがい就業の機会の提供又シルバー事業の安定と普及のため、請負・委任・派遣の形態を考慮し活躍の場を開拓しました。

- ・ 役職員の訪問等による就業先の拡大を目指しました。
- ・ 会員への技能講習会を開催することにより、顧客に対して質の高い就業が提供できるように、また、会員の新規の技能習得をサポートしました。
- ・ お客様対応が迅速にできるように就業と会員のマッチングを常時図っていきました。
- ・ クレームのあった就業については、事務局・会員と共に解決にむ

け、真摯に対応し、詳細を分析し業務改善を図りました。

- ・ シルバー事業の周知理解の拡大のため、タウン誌・市広報誌・ホームページ等により『お仕事募集』を行いました。
- ・ 信頼されるセンターとしての対応をしました。

### 3 高齢者活用・現役サポート事業

生きがいとしての就業を提案し企業の人手不足や現役世代を支える分野での就業の促進を開拓、企業等とのマッチング機能の強化を図っていきました。

- ・ 担当職員やコーディネーターを配置しマッチングできる会員の開拓・既存会員の把握をしました。
- ・ 新規派遣問い合わせ企業への初期対応を丁寧に行いました。（現況での就業マッチングができない場合はフォローを実施）
- ・ 公共への派遣事業の採用ができるように、担当者・役職員がセンター事業の説明を行ないました。
- ・ 派遣における入職時研修・教育訓練・会員のマナーの研修会を実施しました。（速やかな就業・マナー向上）
- ・ 介護・学童保育等の講習会への参加を推進しました。（女性会員の就業拡大・会員拡大）
- ・ 市の各関係部署からの情報収集、連絡を密にし、事業展開を図りました。
- ・ 新事業や事業拡大のための施設確保のため新事務所への移転計画を実施しました。
- ・ リーダー研修会、講習会班長会議を実施し育成を図りました。
- ・ ガイドラインを活用し・基本法令を順守しました。
- ・ 見積のあり方について問題提起し実施を提案しました。

### 4 地域就業機会創出・拡大事業（衆楽茶屋）

次年度以降の事業継続のための運営改善を図り運営形態の確立を図りました。高齢者ならではの「おもてなし」で茶屋を訪れるお客様、各地のシルバー人材センターへの衆楽茶屋の活動の周知を図り観光津山をPRし、地域の高齢者や市民の憩いの場となるように努力しました。

- ・ 軽食やお土産品・手作り品（小物・農産物）・各地域の特産品の販売等で、市全体の観光周知を図りました。
- ・ 新聞・広報誌等で、生きがいシルバー事業の周知を図りました。
- ・ 観光客にパンフレット等を案内し観光津山を宣伝しました。
- ・ 衛生講習会等の参加を促し安全衛生意識の向上を図りました。
- ・ 会員の就業状況と元気な高齢者をアピールし、新会員入会の一躍となりました。
- ・ お客様のお声を聴きながら業務の改善を図りました。

## 5 チッパー事業

利用者還元ができるよう会員（作業員・利用者）の協力を求めて行きました。

- ・ 事業を進めるうえで、利用会員全体の協力とモラルが必要不可欠であることを再認識してもらうよう随時センター会報・役職員による声掛け活動を行いました。
- ・ 津山市広報に掲載し利用者還元を行いシルバー人材センターの広報周知の一役となりました。
- ・ 付随である刈草の処分についての混入物や搬入について未解決となり検討が今後の検討課題となりました。

## 6 高齢者支援（ワンコイン）事業

津山市の生活支援体制整備協議体の場においてこの事業の必要を周知し、地域貢献・ボランティア活動に会員全体で取り組んでいただけるようお願い致しました。今後は、地域を支えるシルバー人材センターとして明確化できるよう一人でも多くの会員さんの参加を求めて行きます。

## 7 協議体参加事業

- ・ 津山生活支援体制協議体においては、関係団体との情報交換等で地域に必要な事業の把握を行いました。（空き家管理事業・買い物支援等）
- ・ 生涯現役促進地域連携事業においては、講習会（清掃・剪定）・面接会等へ協賛、プロモーションビデオへの会員参加で、新たな会員の獲得とシルバー人材センターの周知拡大を行いました。

## 8 情報・普及啓発活動

津山市シルバー人材センターの周知を図り、センターの魅力・働くことで得られるもの（生きがい・健康・人とのつながり・収入）・気軽な働き方などを地域に発信して行きました。

- ・ 全シ協、県連合会、関係団体の講習会、研修会、会議に参加し、各地のシルバー人材センターと活動情報を交換・収集し事業を実施しました。
- ・ ホームページで情報を発信しました。
- ・ ローカルテレビでの会員募集 CM を生涯現役地域促進事業のプロモーション放映と合わせてセンター周知の相乗効果を図りました。
- ・ パンフレットやノベリティ等を配しセンター周知を行いました。
- ・ 互助会有志により、イベントでのシルバー事業の情報発信（パンフレットの配布等）を行いました。
- ・ 市広報・機関誌や高齢者向けパンフレットに広告を掲載しました。

## 9 講習会・研修会の実施・参加

会員の技能向上や会員・役職員の資質向上を図りました。

- ・ 会員の技術習得・質の向上のための講習会の開催  
（樹木剪定 9/9、1/10 ・マナー講習 10/24）
- ・ リーダー育成のための研修会・班長会議の開催 7/20、3/29
- ・ 会員の健康や安全のための講習会の開催  
（交通安全 10/24・救急法 1/17・消費者被害 2/6）
- ・ 認知症サポーター養成講座（9/6、10/11）
- ・ 全シ協・県連合会主催の講習会・研修会へ参加し役職員の資質向上を図りました。
- ・ 社会変化に対応できるように公益法人関係講習会、関係法令講習・研修等に参加し法令を順守を努めました。
- ・ 未入会高齢者・未就業会員に連合・センター主催講習会への参加を促進しました。
- ・ 資格取得のための講習会参加を促進しました。（古民家簡易鑑定・農薬管理指導員）

## 10 安全・適正就業の推進

幸いなことに傷害事故の発生は本年度はありませんでしたが、大きな賠償事故が発生し、思い込みではなく、発注者との確実な現地確認・見積もりのもとに就業は行わなければならないことを再認識しました。

また、適正就業ガイドラインの正しい理解、協力を求め安全・適正就業の徹底を図りました。

- ・ 「安全はすべてに優先する」を会員各自に認識してもらうため、日頃から声掛けを実施しました。
- ・ 安全講習会（1/17 救急法・交通安全）を実施しました。
- ・ 安全委員会による安全パトロールを実施し各班長・リーダーが中心となって安全の確認・事故防止を図り安全意識の高揚に努めました。
- ・ 就業時のヘルメットの着用・安全装具装備等についての義務、自分自身の身は自身で守ることを繰り返し伝えました。
- ・ 日頃からの健康管理、自主的な健康診断の受診のお願いをしました。
- ・ 運転免許所持者確認と安全運転講習等の受講を促しました。

## 11 職業紹介・労働者派遣事業

高齢者の雇用ニーズや適正就業のために、臨時的かつ短期的なものその他軽易な業務を希望する高齢者に対し実施しました。

- ・ 派遣事業においては企業の就業開拓を行うと同時に、公共へ安定した派遣就業への協力を求めました。
- ・ 適正就業ガイドラインを基に事業を推進していきました。
- ・ 新規お問い合わせには、地域の人手不足に貢献できるように業務内容を十分検討し法令順守で、無理のない派遣計画を提案し双方の理解のもとに事業を実施しました。

## 12 地域貢献活動

地域貢献のできるセンターになることが今後のシルバー事業の発展につながることを声掛けを行い、公共施設の剪定・草刈・清掃等のボランティア活動をしました。

- ・ 10/29 浄化センター草刈
- ・ 11/4 久米倭文ふれあい学習館剪定ボランティア
- ・ 3/2 久米支所周辺草刈剪定ボランティア

## 13 基盤調整・組織の強化

- ・ 市当局への理解協力を求め事業拡大のための新事務所への平成 31 年 4 月 1 日付移転を実施しました。
- ・ 賠償事故の発生により改めて発注・就業の正しいあり方について調査検討、また、会員・職員の資質向上や請負事業の基本である見積りを確実にを行うことの大切さを再確認し、次年度は改善に向けての研修・実行を進めなければなりません。
- ・ “高齢者のためのセカンドライフ再構築の窓口” となるよう公共団体の事業に協賛参加致しました。
- ・ 多くの課題が露出する年度ではありましたが、会員・役職員が協力・努力しみんなで、「魅力いっぱい・笑顔あふれる」センターを目指しました。